

## 第2号議案

### 道路改築事業

国道353号 祖母島～箱島バイパス 渋川市～東吾妻町

着工年度  
評価理由

平成19年度

社会的状況の変化

## 1. 事業の目的

国道353号祖母島～箱島バイパスは、「上信自動車道」の一部として、吾妻地域から関越自動車道等へのアクセス向上により、観光誘客や物流の効率化による地域経済の活性化や医療施設への搬送時間の短縮等を図るために事業実施するものである。

また、ハッ場ダム周辺地域の生活再建にとっても欠かせない道路となっている。

### 【上信自動車道全体の効果】

医療機関への搬送時間の短縮

吾妻地域から群馬県の総合周産期母子医療施設への1時間圏域人口が約9千人増加

【約24千人 約33千人】

関越自動車道へのアクセス向上

・関越自動車道 渋川伊香保ICから草津温泉へのアクセス時間が約30分短縮

【約90分 約60分】

ハッ場ダム周辺地域の生活再建を支援

### 【上信自動車道 祖母島～箱島バイパスの効果】

国道353号の通行の安全の確保

防災点検要対策箇所5箇所を回避



## 2. 事業概要と進捗状況

### 事業概要

| 事業場所       | 渋川市祖母島～吾妻郡東吾妻町箱島        |                         |
|------------|-------------------------|-------------------------|
| 区分         | 前回再評価時(H27)             | 今回再評価時                  |
| 全体事業費      | 9,100百万円                | 11,100百万円               |
| 全体事業費増減の理由 |                         | 地質調査結果に伴う橋梁構造見直しによる増加等  |
| 事業期間       | H19～H31                 | H19～H31                 |
| 事業内容       | 道路延長 4,000m<br>幅員 10.5m | 道路延長 4,000m<br>幅員 10.5m |

### 事業経緯

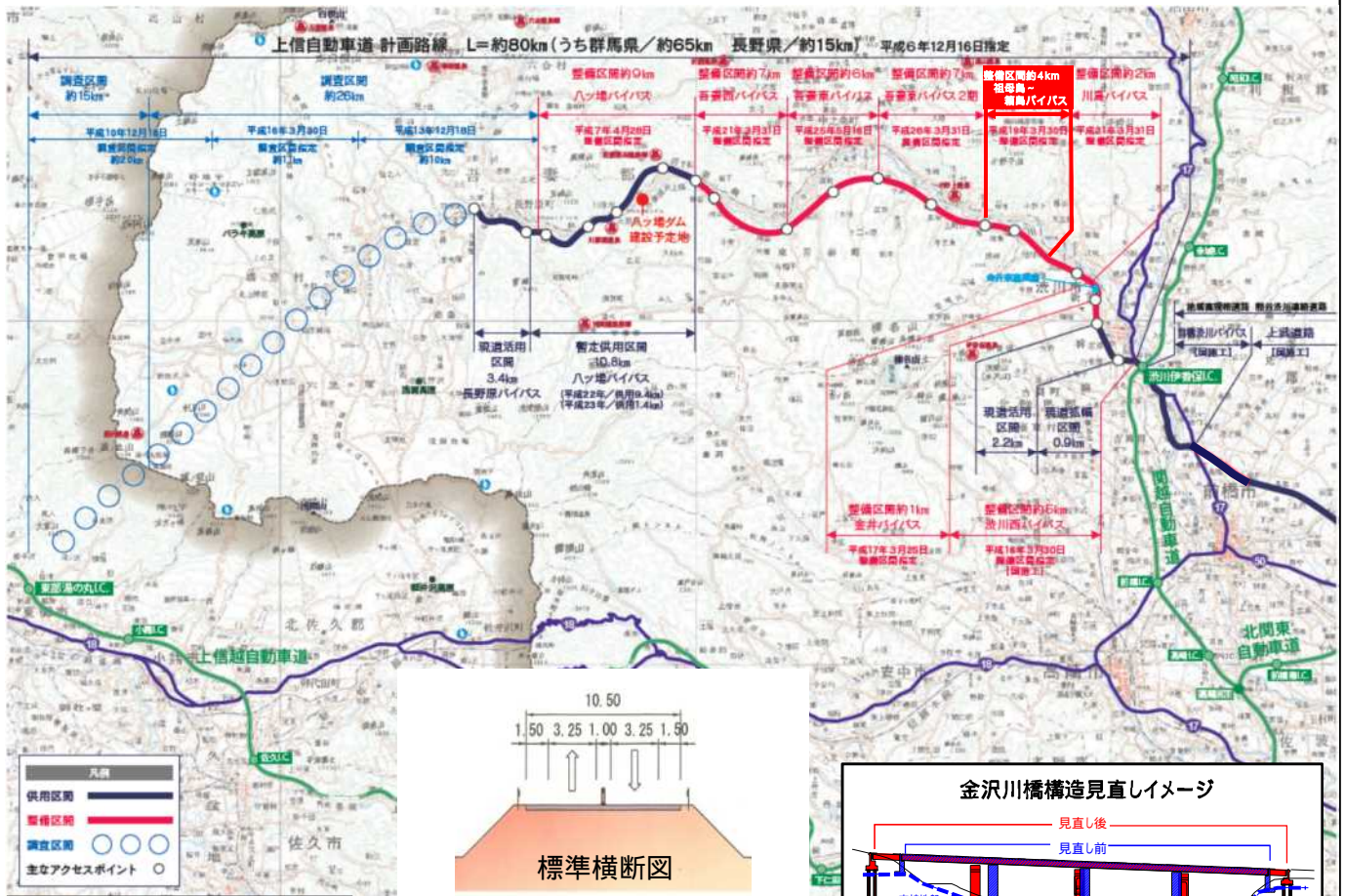
| 年度  | 主な経緯   |
|-----|--------|
| H19 | 事業着手   |
| H23 | 用地買収着手 |
| H24 | 工事着手   |

### 進捗状況

|      | 全体計画      | 前回評価時の進捗状況(進捗率)  | 前年度までの進捗状況(進捗率)  |
|------|-----------|------------------|------------------|
| 事業費  | 11,100百万円 | 4,923百万円 (44.4%) | 7,309百万円 (65.8%) |
| 用地買収 | 142,077㎡  | 129,034㎡ (90.8%) | 141,863㎡ (99.8%) |
| 計画延長 | 4,000m    | 0m (0.0%)        | 0m (0.0%)        |

## 2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)

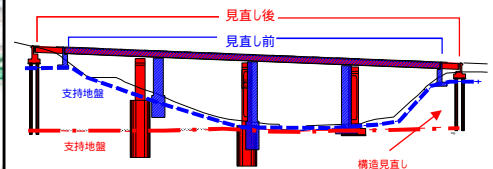
### 地域高規格道路「上信自動車道」



### 祖母島～箱島バイパス

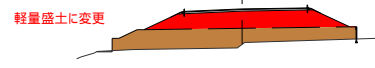


#### 金沢川橋構造見直しイメージ



支持地盤の相連により  
 橋長の見直し L=171m L=194に変更  
 基礎構造の変更

#### 盛土構造の見直しイメージ



### 祖母島～箱島バイパス

川島バイパス  
 金井バイパス

### 3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

吾妻地域と県央地域間の移動時間は改善されておらず、地域高規格道路の整備により、物流・観光等の地域間交流の拡大による地域経済の活性化や、医療施設への患者搬送時間短縮が望まれており、事業の目的・必要性に変化はない。

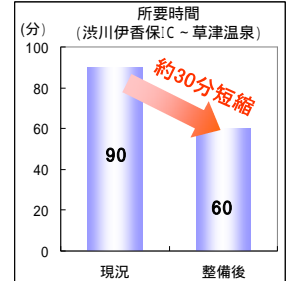
国道353号(渋川市村上)では、過去に大規模な崩落の発生、道路斜面危険箇所5箇所が存在しており、この代替機能を確保する必要性は依然として高い。



国道353号の崩落事故発生状況



周産期医療機関への1時間圏域



渋川伊香保IC～草津温泉アクセス時間

### 4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

本バイパスは上信自動車道の一部として整備しており、高速交通網が未整備である吾妻地域のアクセス向上には欠かせない道路であり、一連区間で整備することにより、吾妻地域の活性化に大きな効果が期待できる。

本事業に並行する国道353号沿線は、急峻な崖と吾妻川に挟まれた区間が多く、過去には大規模な崩落も発生していることから、災害緊急時における代替機能を確保できるバイパス整備が有効である。このため、目的を達成する事業として適当であると考えられる。

### 費用便益分析

単位:千円

|               |          | 前回再評価時 (H27)                                     |       | 今回再評価時   |       | 備考          | 便益説明 |
|---------------|----------|--|-------|--|-------|-------------|------|
| 算出根拠マニュアル     |          | 費用便益分析マニュアル<br>国土交通省<br>道路局、都市・地域整備局<br>平成20年11月 |       | 費用便益分析マニュアル<br>国土交通省<br>道路局、都市・地域整備局<br>平成20年11月 |       |             |      |
| 基準年           |          | 平成27年  |       | 平成29年  |       |             |      |
| 区分            | 項目       | 現在価値   | 構成比   | 現在価値   | 構成比   |             |      |
| 費用<br>(千円)    | 工事費      | 9,270,000  | 95.8% | 11,487,000                                       | 96.7% | 事業費増による     |      |
|               | 維持管理費    | 406,000  | 4.2%  | 388,000  | 3.3%  |             |      |
| 費用合計 (C)      |          | 9,676,000  |       | 11,875,000                                       |       |             |      |
| 便益<br>(千円)    | 走行時間短縮便益 | 15,796,000                                       | 96.5% | 17,086,000                                       | 96.5% | 基準年の変更に伴う増加 |      |
|               | 交通事故減少便益 | 11,000   | 0.1%  | 11,000   | 0.1%  |             |      |
|               | 走行経費減少便益 | 566,000  | 3.4%  | 612,000  | 3.4%  |             |      |
| 便益合計 (B)      |          | 16,373,000                                       |       | 17,709,000                                       |       |             |      |
| 費用対効果分析 (B/C) |          | 1.69   |       | 1.49   |       |             |      |

## 5. 事業が長期間要している理由は？

元々が長期計画

不測の事態により長期化 ]

【元々が長期計画の理由】

・インターチェンジごとに開通目標を設定して計画的に事業を推進するが、事業延長L = 4.0 km、全体事業費91億円(変更前)と事業規模が大きく、地元調整、用地取得、工事完成までに長期間を要する計画となっている。

## 6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし

事業計画の変更

スケジュールの変更

国道353号祖母島～箱島バイパスは、「上信自動車道」の一部として、吾妻地域から関越自動車等へのアクセス向上により、観光誘客や物流の効率化による地域経済の活性化や、医療施設への搬送時間の短縮等を図るために事業実施するものである。

また、ハッ場ダム周辺地域の生活再建にとっても欠かせない道路となっている。

国道353号(渋川市村上)は、道路斜面危険箇所5箇所が存在しており、緊急時の代替機能を確保する必要性は高く、吾妻地域の地域経済の活性化に資する上信自動車道の整備が急務である状況は変わっていない。

事業実施にあたり、地元市町村や地域住民との合意形成に努めた結果、道路計画についての同意が得られたことから、平成23年度に用意買収に着手し、平成24年度から改良工事に着手した。

用地取得の状況は99%となっており、今年度中に協力を得る予定であるが、用地取得後に実施した地質調査結果により、橋梁構造(金沢川橋、箱島跨道橋の基礎形式、橋長の変更)や盛土構造(一部を軽量盛土に変更)の見直し等が必要になったことから全体事業費が約20億円増加となる見込みである。

平成31年度の開通を目指して事業を推進しているところであり、施工に期間を要する構造物の先行着手しており、工程に遅れが生じないように努めている。

以上から本事業の必要性、重要性は高く、事業を継続実施し、早期に効果発現を図ることが適切であると考える。